



特集 震災復興と 建築教育

プロジェクト…◎宮城大学 竹内泰 | 「番屋プロジェクト」を復興の一步に ◎工学院大学 後藤治 | 年金生活者でも支払い可能な伝統工法型の恒久住宅って? ◎東海大学 杉本洋文 | 間伐材を使って学生が被災地に応急公民館を建設 ◎首都大学東京 渡邊英徳 | 震災情報を世界規模で共有する3Dマッピングプロジェクト ◎神戸大学 槻橋修 | まちの模型を再生の手がかりに Model + Aid ◎新潟大学 岩佐明彦 | 仮設住宅を住みこなす「仮設のトリセツ」 提言…◎塚本由晴 + 貝島桃代 | 被災地に足を運び、考える ◎渡辺菊真 | 耐震にすぐれた土震プロジェクト発足 教育支援…◎本江正茂 | 震災で痛感するキャンパスの必然性 ◎五十嵐太郎 | 「漂流教室」による建築教育のリノベーション ◎横浜国立大学大学院 Y-GSA 北山恒 | 「当たり前」を疑い考え直す機会に 学生の声…◎加藤拓郎 | 「学校」がなくなる辛さ

番屋プロジェクト

（加藤拓郎）一東北大学大学院建築士専攻

重要なのは、彼らが、地元で作業し、活動し、外に発信することである。変化の中に彼らが身を置き、時間と空間を共にすることである。（竹内泰）一宮城大学建築学専攻准教授。仙台で学ぶ学生として震災以後もなお価値を失わない建築、都市について思考して行きたい。それが大変に難しいことは承知である

オープンハウス⑬ 『Sora 2』 — 森健一郎



各地域に拠点を置く設計事務所の建築集
作例集

「地域の資源」になる
住宅のような高齢者福祉施設を
— 西尾正敏

冷房電力節減のために夏涼しい家を、
涼しいビルを！— 生田信皓
— 論評 —

東北の建築家からのメッセージII

福島の地場産材仮設住宅、 宮城の新たな住民組織

